

小児脳神経疾患治療センター センター長就任のご挨拶

小児脳神経疾患治療センター センター長 きみわだ 君和田 ともみ 友美

この度、小児脳神経疾患治療センターのセンター長を拜命いたしました君和田友美と申します。

私は2001年に東北大学医学部を卒業し東北大学脳神経外科に入局しました。関連病院で修練を積んだのち、米国ミシガン小児病院に留学、帰国後は、国立精神神経センター神経研究所にて神経幹細胞に関する基礎研究を行い医学博士を取得しました。脳神経外科専門医を取得後、2009年以降は宮城県立こども病院にて小児脳神経外科医として研鑽を積んで参りました。



小児脳神経疾患治療センターでは、産科や小児科をはじめとする多くの診療科と密に連携し、胎児期・新生児期から概ね15歳未満の患者さんを対象とし、髄膜炎や急性脳炎・脳症などの感染症、脳性麻痺や筋ジストロフィーなどの運動障害、知的障害や発達障害、てんかんや頭痛などの内科疾患、及び水頭症・二分脊椎・頭蓋縫合早期癒合症・キアリ奇形などの中枢神経系先天奇形やモヤモヤ病をはじめとする小児脳血管疾患、頭部外傷、脳腫瘍などの外科疾患を担当します。また、近年ニーズの高い「赤ちゃんの頭の形外来」も開設しました。希少疾患が多いため、エビデンスが確立していないことも多く、診断や治療に難渋することもしばしば経験いたしますが、こどもの発達を守り、患者さんの未来を守る大変やりがいのある仕事だと思っています。

島根県の医療に貢献できるよう、微力非才ながら精進する所存です。

今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先 小児科外来 TEL:0853-20-2383

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

7月15日～8月14日

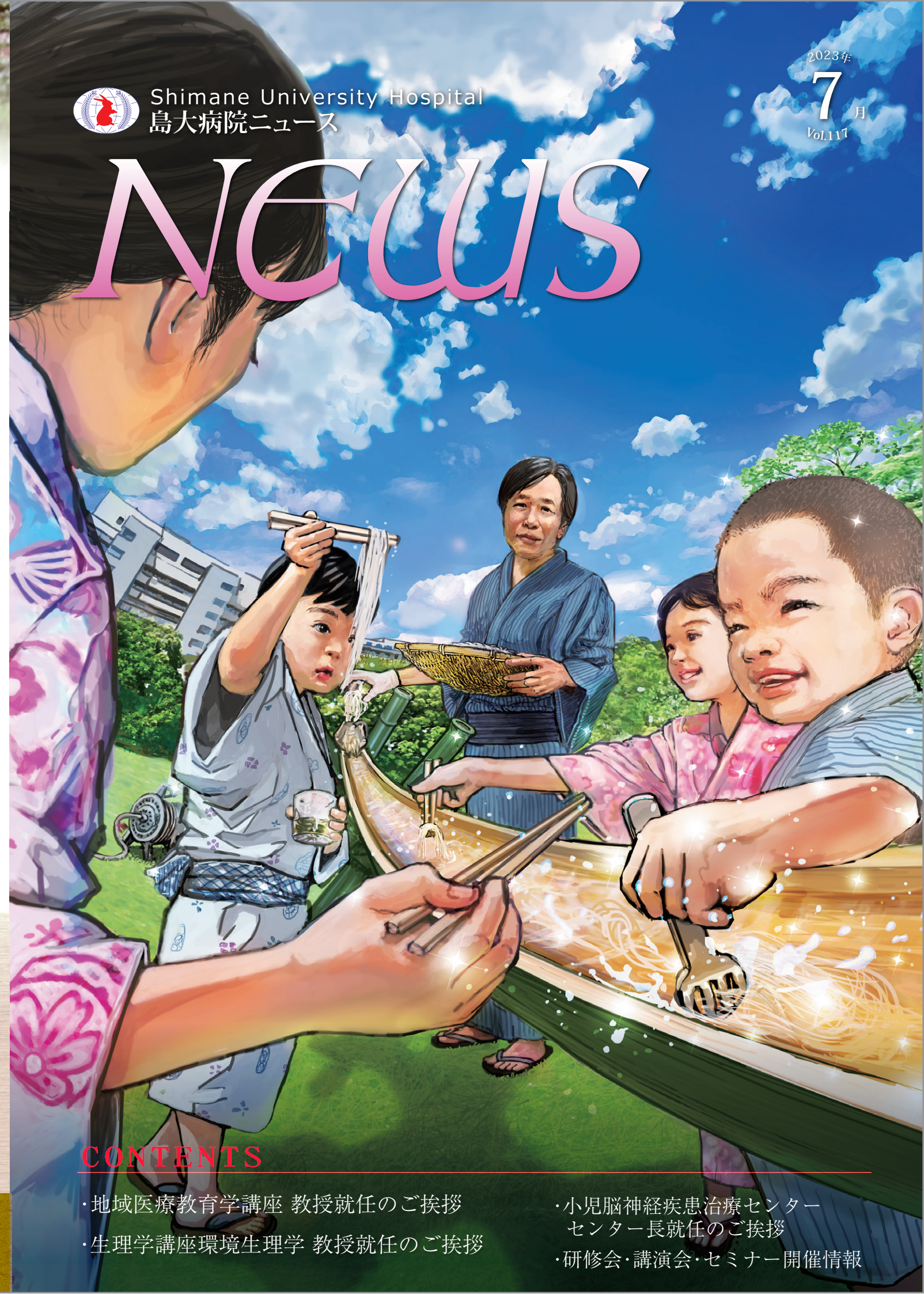
対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
8/5(土) 13:30~15:00	令和5年度 肝臓病に関する市民公開講座	ゼブラ棟2階だんだん (Zoomによる同時配信あり)	一般 医療	島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター
6/1(木)~ 8/31(木)	令和5年度 第1回肝臓病教室・家族支援講座	肝疾患相談・支援センター ホームページ上での動画配信	一般 医療	島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



NEWS



CONTENTS

- ・地域医療教育学講座 教授就任のご挨拶
- ・生理学講座環境生理学 教授就任のご挨拶

- ・小児脳神経疾患治療センター
センター長就任のご挨拶
- ・研修会・講演会・セミナー開催情報

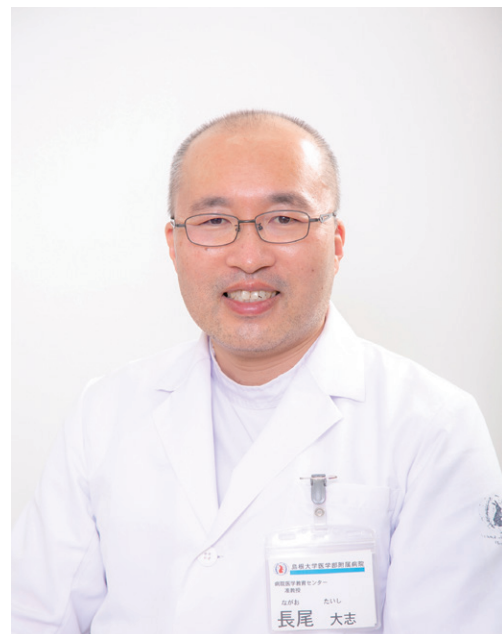


地域医療教育学講座 教授就任のご挨拶

地域医療教育学講座 教授 ながお たいし
長尾 大志

2023年4月1日付けで、地域医療教育学講座教授を拝命いたしました長尾大志と申します。就任のご挨拶を申し上げます。

私は1993年京都大学を卒業後、京都大学大学院を修了しカナダのプリティッシュコロンビア大学に2年間留学したのち、滋賀医科大学医学部附属病院に呼吸器内科医として15年間在籍しておりました。その間医療現場での様々な経験から、医師の偏在、医療の質の担保、医療安全など、現在の医療における諸問題を解決するためには大学医学部における医学教育が極めて重要であると深く認識するに至りました。それで教育により本質的に関わりたいと考え、2020年より当院病院医学教育センターにて島根大学における医学教育に取り組んでまいりました。



就任前後からコロナ禍となり、なかなか直接対面で教育に関して議論する機会もなく、授業や実習もオンラインになり、自分の理想とする教育を展開することはできておりませんでした。今後は多くの皆様と対話をし、より良い教育を島根大学医学部の学生に提供できるよう、精一杯努力して参りたいと考えております。

地域医療教育学講座とは「地域医療の」教育をする講座、とも取れますし、「地域において」医療を教育する、と言う意味にも取れます。また「地域で必要とされる」医師を教育する、という意味もあります。島根大学の島根大学による島根県のための医学教育を、皆様とともに考え、実践して参る所存でございます。皆様のご理解とご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先 地域医療教育学講座 TEL:0853-20-2526

生理学講座環境生理学 教授就任のご挨拶

生理学講座環境生理学 教授 きし ひろこ
岸 博子

2023年5月1日付けで生理学講座環境生理学の教授に就任しました岸博子と申します。前任地は山口大学です。同じ中国地方で引き続き生理学研究与教育が行える事を大変嬉しく思います。

専門の研究分野は、血管平滑筋の収縮制御機構です。血管平滑筋は収縮と弛緩をする事で、血圧を一定に保ち全身臓器への血流を制御します。この収縮制御機構の破綻は、虚血を引き起こす様な病的な収縮(異常収縮)を引き起こします。これまでに私は、質量分析計を用いて血管平滑筋異常収縮に関与するシグナル分子の同定を進めてきました。



異常収縮のメカニズムの全容を解明して、異型狭心症やくも膜下出血後脳血管攣縮など異常収縮によって起こる疾患の治療法の開発に繋げる事を目標としています。

教育については、山口大学で20年近く生理学の講義と実習を行ってきました。生理学は、人体の多様な機能の解明を通じて、疾患の病態解明や治療法開発の基盤となる極めて重要な学問です。これまでに私は丸暗記ではなくメカニズムを理解させ、病態生理の理解に繋がる様な生理学講義・実習を心がけてきました。島根大学でも病態生理の理解へ繋がる生理学教育を実践し、優秀な医師の育成に貢献したいと思っております。

出雲市に暮らして一ヶ月余り経ちましたが、自然の豊かさと美しさに感動しています。北に山、南に平野が拡がり時々強い風が吹く所が故郷の群馬県と少し似ていると感じます。どうぞよろしくお願いいたします。

問い合わせ先 生理学講座環境生理学 事務室 TEL:0853-20-2113



ご報告

「泌尿器がん」の診療がさらに充実しました！ ～がん地域連携パスの開始とロボット支援手術～



泌尿器科 助教 なかじま ひろちか 中島 宏親
教授 わだ こういちろう 和田 耕一郎

当科では積極的に「泌尿器がん」診療を行っており、特に手術と地域連携に力を入れて参りました。

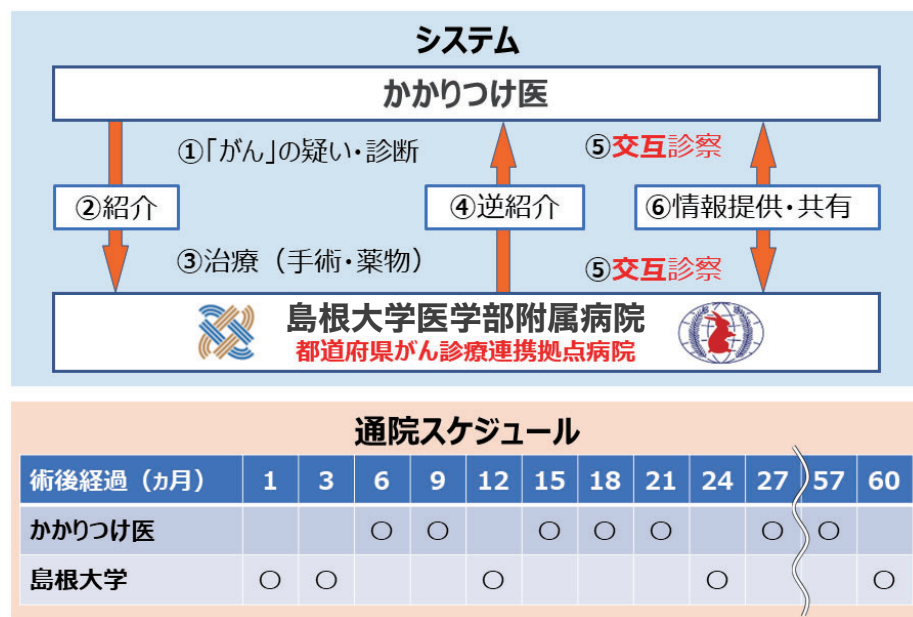
2012年に開始したロボット支援手術は合計800件を超え、がんの手術には不可欠な存在となっています。2022年10月には手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ Xi」の2台体制がスタートし、特にトラブルなく運用しています。前立腺全摘除術、腎部分切除術、膀胱全摘除術、腎盂尿管移行部狭窄に対する腎盂形成術に加え、腎がんに対する腎(全)摘除術と腎盂がん・尿管がんに対する腎尿管全摘除術においてもロボット支援手術を開始しました。ロボット支援手術のプロクター(指導者)資格の保有者も、小川貢平(学内講師)と和田の2名に加え、新たに坪井一朗(助教)と中島の計4名の充実した体制になりました。

地域連携については、2023年6月から前立腺がんにおける「がん地域連携パス」がスタートし、地域のクリ

ニックや病院(地域がん診療連携拠点病院を除く)の先生方と連携して診療を実施していくことが可能となりました(図)。このパスによって、かかりつけ医と大学の担当医が情報を共有し、大学から遠方の患者さんも安心してがん診療を受けられることが期待されます。

泌尿器がんの患者さんのご紹介、がん地域連携パスに関するお問い合わせをお待ちしております。

図 前立腺がんにおける「がん地域連携パス」



問合せ先 泌尿器科 医局 TEL: 0853-20-2253・泌尿器科 外来 TEL: 0853-20-2387



お知らせ

島根大学
公開講座

「遺伝とゲノム医療お話し会」 ～もっと知ってほしい「遺伝」のこと～

臨床遺伝診療部 部長 おにがた かずみち 鬼形 和道
副看護師長/認定遺伝カウンセラー あらき こ 荒木 もも子

遺伝情報には、不変性・予見性、そして共有性という3つの特徴があります。その意味は、生涯変わらない、将来の疾患の発症が可能、そして家系内で情報を共有するので血縁者にも影響が及ぶということです。ある生物の遺伝情報全てを「ゲノム」と呼びますが、その生物の設計図と考えて下さい。保険適用となる遺伝子検査も200種類を越え、日常診療においてもゲノム医療は私たちにとって身近なものとなりました。先日、遺伝情報に基づいた医療の提供を推進することや、差別の防止などを掲げる「ゲノム医療法」が国会で成立しました。

2023年度の島根大学公開講座の中で、当診療部は遺伝医療の専門家による「遺伝とゲノム医療お話し会」を企画しました。参加者自身や家族がこうした医療の対象者になった場合を想定するなど、市民の方々にもゲノム医療を知って頂く機会を提供します。いずれの講座とも、小学校高学年が理解できる内容です。

https://www.ercll.shimane-u.ac.jp/course/open_lecture/



講座内容 ※ ①～③ 共に、時間：14:00～15:00、場所：医学部附属病院ゼブラ棟だんだん

- ① 7月29日(土) 夏休みなぜなぜカフェ「遺伝情報って何?」
小中学生を対象とした講座では、指を組んだ時の上の親指、つむじの向き、親指の反りの有無など、「遺伝の木」を用いて、ヒトの多様性と遺伝的背景などを学びます(写真1)。
- ② 8月26日(土)「出生前診断は受けた方がいいですか? ～これから生まれてくる子ども達について考える～」
- ③ 9月30日(土)「がんは遺伝しますか?」



現在、当診療部では「しまね遺伝医療ネットワーク(NW)」を設立し、県内の遺伝・ゲノム医療の均てん化を図っています。NWに参加いただける施設を募っています。

問い合わせ先

小児科 外来 TEL: 0853-20-2383
✉ identshimane@med.shimane-u.ac.jp





ご報告

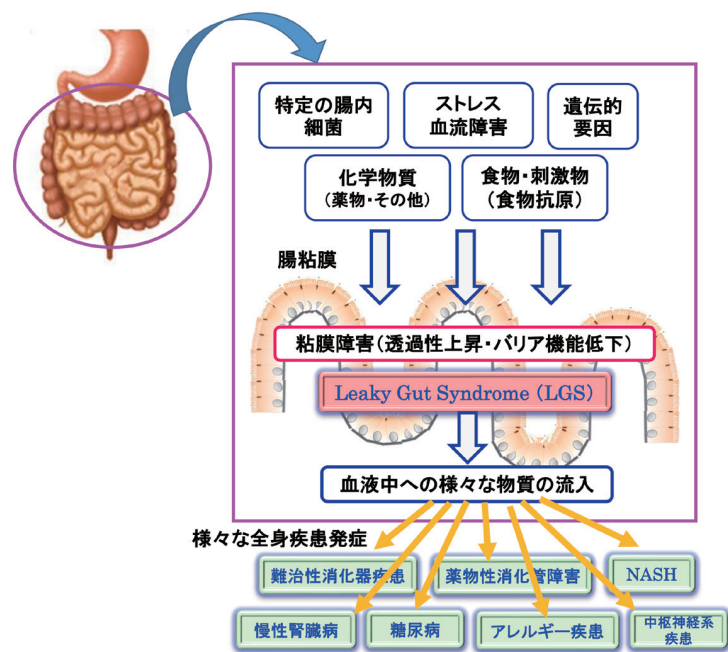
薬理学の教育・リーキーガットシンドロームの研究

病院長補佐(研究・教育担当) 薬理学講座 教授 わた こういちろう 和田 孝一郎

薬理学という学問はその名の通り「薬が効く理由を学ぶ」学問です。「薬」は医療分野で必要不可欠な存在であり非常に多くの薬が存在していますが、加えて毎年のように新しい薬も開発されています。さらにポリファーマシー問題にみられるように、多剤併用している場合有害な薬物相互作用がおこる可能性もあります。そのため学生さんには「薬理学は生涯学習。将来にわたって常に新しい薬の知識をバージョンアップし、自分の専門科以外の薬にも注意を払ってください(患者さんはいろんな薬や健康食品を飲んでいる可能性がある)」と伝えています。学生さんにはその気持ちを忘れず、生涯学習を続けてほしいと思う次第です。

当講座で行っている研究の一つにリーキーガットシンドローム(LGS)に関する研究があります(図)。腸粘膜から本来透過できない分子量の大きな物質や食物抗原が体内や血液中に入ってしまう状態がLGSです。ストレス・虚血による血流障害や、薬を含めた化学物質、高脂肪食による胆汁酸増加などによって粘膜機能が低下したり障害されることによりLGSがおこると言われています。さらにLGSは腸の状態悪化だけではなく、非アルコール性脂肪肝炎や腎機能障害、アレルギー疾患や循環器疾患など様々な全身疾患の引き金になることもわかってきました。一方でLGSの検査や診断は難しく、殆ど行われていないのが現状です。そこで当講座では、消化器内科と共同でLGS検査法の開発と、LGSによって誘発される全身疾患発症に関する研究を行っております。ストレスや様々な化学物質・刺激物質が増えている現代、我々の腸は常にリスクにさらされています。LGSという様々な疾患を誘発する状態を検出しそれを改善することによって、全身疾患の発症を未然に防ぐことが大切であると考えて研究を行っております。研究を通じて皆様方の役に立てれば幸いです。

図 リーキーガットシンドローム(LGS)に関する研究



問合せ先 薬理学講座 事務室 TEL : 0853-20-2133



ご報告



「看護師の特定行為研修」開講式を行いました

かわかみ としえ 看護部長 川上 利枝

高齢化の進展、医療の高度化・複雑化など、保険医療を取り巻く環境が変化するなか、2015年10月からスタートした看護師の特定行為研修制度は、あらかじめ作成した手順書に基づき、看護師が患者さんの状態を見極め、適切なタイミングで特定行為(診療の補助)を行う制度です。当院は、看護師の特定行為研修機関として、2020年2月26日厚生労働省から指定を受けました。

今年度の看護師特定行為研修の研修生は5名で、「創傷管理関連」2名、「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」2名、「動脈血液ガス分析に係る薬剤投与関連」2名、「循環動態に係る薬剤投与関連」1名の4区分延べ7名が研修を受講します。

2023年5月17日に行われた開講式では、椎名病院長より特定行為の行える看護師に期待する旨の言葉があり、その後、研修生それぞれが抱負を述べ、決意を新たにしました。

特定行為が実施できる看護師の育成により、医学的視点と看護の視点両面から判断を行い、手順書による特定行為を行うことで、患者さんの状態に応じた適切な医療、ケアの提供をタイムリーに行うことができます。特定行為研修を修了した看護師は、医師の働き方改革に伴うタスク・シフト/シェアの推進にも資することが期待されています。当院では、安全で安心な医療の実践、さらなるチーム医療の推進を図り、質の高い医療を提供する人材を引き続き育成していきたいと考えています。

問合せ先 看護管理室 TEL : 0853-20-2478





ご報告



「看護の日」のイベントを開催しました

看護部長 かわかみ としえ
川上 利枝

5月12日は「看護の日」です。老若男女を問わずだれもが「ケアの心」「看護の心」「助け合いの心」を育むきっかけとなるよう、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、1990年に旧厚生省により制定されました。

当院看護部でも5月12日の「看護の日」にあわせて、イベントを開催しました。今年度は、「ハンドマッサージ」と「在宅生活へつなぐ退院前後訪問について」と題してミニ講座を行いました。

「ハンドマッサージ」では、外来患者さん、ご家族を対象に、リラックス効果のある3種類のアロマオイルから、外来患者さん、ご家族に好みの香りを選択して頂き、パッチテスト後に緩和ケア認定看護師が中心となり、マッサージを行いました。マッサージを行っている際、“気持ちいいですね”とお言葉を頂き、また、看護師が患者さん、ご家族とゆったりと向き合えたことで、今の思いをお聞きする良い時間となりました。

ミニ講座では、地域医療連携センター看護師長より、当院で取り組んでいる「退院前後訪問」について紹介がありました。入院病棟の看護師と当院の専門性の高い認定看護師が、訪問看護師が来られる日に合わせて一緒に患者さん宅を訪問し、在宅看護を支援する取り組みです。訪問した際の具体的な支援内容について説明があり、参加された患者さん、ご家族の方々も真剣に耳を傾けておられました。

地域医療と連携した看護の重要性が高まる中、看護への理解、当院看護部の活動を紹介させて頂く良い機会となりました。

問合せ先 **看護管理室** TEL: 0853-20-2478



ハンドマッサージの様子



ミニ講座風景



ご報告



こどもの日の花火大会

C病棟6階(小児病棟) 看護師長 かげやま みほこ
陰山 美保子
病棟保育士 つばき あつみ
樫 敦美

こどもの日の花火大会は、「入院している子どもたちにもこどもの日を楽しんで欲しい」と、出雲市大社町在住、花火師の多々納恒宏さんらのボランティア団体「こどもの日花火の会」によるイベントです。

毎年5月5日に恒例となったこどもの日の花火大会ですが、当日は、強風のため延期となりました。子どもたちのがっかりした様子がありましたが、5月27日(土)に開催されました。この日は天候に恵まれ、風も穏やかで最高の花火日和でした。

夜空は250発もの美しい花火で彩られました。真正面から見る花火は迫力があり、花火が上がるたびに「わあきれい」「花火、おっきい」「あの花火、大好き」と歓声が沸いていました。

コロナでの行動制限は問われなくなったものの、入院生活は社会的な孤立状態を感じやすく、子ども達にとっての行事は、社会とのつながりや季節を感じる大変貴重なものです。

花火終了時、花火師さんたちが手にされた懐中電灯をクルクル回す合図さえも、赤い光が暗闇に映え、大変温かみを感じられるものでした。花火師さんに子どもたちの「ありがとう」の声が届いたことでしょう。

一日も早く平穏な日常が戻り、来年もみんなで賑やかに花火鑑賞できますように…。

問合せ先 **小児病棟** TEL: 0853-20-2616





島大病院ニュース 2023年7月

ご報告

出雲キャンパスクリーンデー の実施について

会計課施設管理室 室長 よねはら まさたか
米原 昌隆

例年、6月と10月に「出雲キャンパスクリーンデー（構内一斉清掃作業）」を実施しています。今年は参加者の健康に配慮して天候の落ち着いた時期へ変更することとし、5月31日（水）に第1回出雲キャンパスクリーンデーを実施しました。

快適な気候の中、約120名の職員が医学部本部棟、臨床講義棟、基礎研究棟や医学図書館の建物周辺、附属病院建物に隣接した南側道路や看護師宿舎周辺の除草作業を行いました。なお、当日は出雲キャンパスにおける新型コロナウイルス感染症予防対策に配慮し、ソーシャルディスタンスを保ちつつ、マスクを着用しての作業となりました。

今後も出雲キャンパス全体の環境整備活動（学外ボランティアならびに教職員と学生有志により休日に実施する環境整備ボランティア）と連動して多くの区域の景観が整うように活動を行ってまいります。

参加していただいたみなさん、ありがとうございました。

問合せ先 会計課施設管理室 TEL：0853-20-2549



2023年7月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2023年7月

お知らせ

活動紹介

地域医療研究会（通称ちいけん）について

島根大学医学部医学科3年 地域医療研究会代表 ふじさわ まい
藤澤 舞

島根大学医学部の学生サークル「ちいけん」では、地域医療に興味・関心のある医学部生が集まり、主体的に活動を行っています。

年二回の地域医療実習では少人数のグループを組んで島根県内外の医療機関を訪問し、各地域における生活から医療現場の様子までを現地で見て学びます。1年生から4年生まで学年混合のグループを作って実習に参加することが当サークルの強みの一つであり、仲間との意見交換も学習の助けになります。実際に現地に足を運び、地域の中で学ぶということも大切にしています（写真1）。

昨年度は一部学生が浜田市金城町のお祭りである「さざんか祭り」にも参加しました（写真2）。企画立案の段階から積極的に携わらせていただき、当事者として地域の予防活動に参加することができる貴重な機会となりました。今年度はさらに活動の幅を広げ、さざんか祭りへの参加はもちろん、認知症サポーター養成講座の受講など新たな取り組みを行う予定です。

当サークルのメンバーは出身県や背景こそバラバラですが、地域医療への志を持った学生ばかりです。将来的に地域で活躍できる医療者になるべく、日々楽しく勉強させていただいております。引き続き私たちの活動を見守っていただけると幸いです。

問合せ先 医学部 学務課 学生支援・総務担当 TEL：0853-20-2088



2022年度夏季地域実習（哲西診療所）



2022年度さざんか祭り



2023年7月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





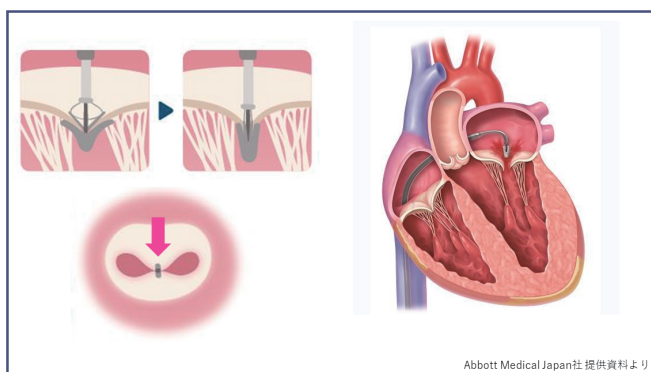
お知らせ

(マイトラクリップ:経皮的僧帽弁接合不全修復術) MitraClipが始まりました!

総合ハートセンター センター長
循環器内科 教授

えんどう あきひろ
遠藤 昭博
たなべ かずあき
田邊 一明

社会の高齢化に伴い、心臓弁膜症が増えてきています。そのうちでも特に多いのが大動脈弁狭窄症と僧帽弁閉鎖不全症です。大動脈弁狭窄症の治療はTAVI（経カテーテル大動脈弁留置術）の導入により劇的に改善しました。次のターゲットは僧帽弁閉鎖不全症です。当院での心臓弁膜症に対するカテーテル手術の第二弾である、僧帽弁閉鎖不全症に対するMitraClip（経皮的僧帽弁接合不全修復術）を2023年3月31日に島根県で初めて実施し、無事成功しました。当院ではTAVIで培った病院横断的なハートチームを活かしてMitraClip実施に向けて準備を進めてまいりましたが、ついに島根県でもMitraClipが始まりました。



Abbott Medical Japan社 提供資料より

経皮的僧帽弁接合不全修復術



手術の様子

第1例目の症例は80歳代の女性で、重症僧帽弁閉鎖不全症がMitraClipにより軽症まで改善し、術後翌日から退院に向けてのリハビリが始まり、1週間ほどで軽快退院されました。既に2例目も成功裏に終了しており、現在、3例目に向けて準備を進めております。

高齢化先進県である島根には、僧帽弁閉鎖不全症による心不全で困っておられる高齢者が沢山おられるはずですが、MitraClipという最先端治療を地元で提供できるようになったことは、必ずや島根県民の皆様にとって大きな福音となるものと確信しております。

もしも高齢者が「動くと胸がせつい*」と訴えられましたら、まず聴診してみてください。そして心雑音が聞こえたら「せつい*」原因は心臓弁膜症かもしれませんので、ぜひ大学病院へご紹介いただきますようお願い申し上げます。

*せついとは、出雲地方の方言で、主に身体的にきつい、苦しいなどの意味合いで使われます

問合せ先 循環器内科 医局 TEL: 0853-20-2249

